

## 福知山市が移住先として選ばれるための移住施策 について

～強みを活かした特徴的な移住戦略の考察～

京都府福知山市 伊達 大史



### はじめに

ここ数年、大都市圏から地方へ移住する人、移住を望む人の数は近年大きく増加している。内閣府が実施した都市住民の農山漁村地域への定住願望についての調査によると、平成 17 年調査に比べ平成 26 年調査では、30 代の農山漁村への定住願望が 17.0%から 32.7%へ、40 代では 15.9%から 35.0%へと伸びている。

また、地方創生の取組が進められる中において、国・地方をあげた地方への移住・定住促進施策の効果もあり、さらに地方への人の流れが加速しつつある。

しかしながら、都市部からの移住者により社会増に転じた自治体が生まれる一方で、思うように移住が進まない自治体も存在している。

そこで、移住者は何を基準に移住先を決めているのか。そして、移住先として選ばれるには何が有効なのか、分析をしつつ福知山市における効果的な手法を提案してみたい。

### 1 福知山市の概要と人口の推移

#### (1) 位置・地勢

福知山市は、京都府の北西部にあり、西は兵庫県と接し、丹波・丹後・但馬により形成される「三たん地域」の中央部に位置している。市の面積は 552.54 km<sup>2</sup>と京都府内の市町村では 3 番目の広さを有し、由良川流域の福知山盆地を中心に市街地が広がっている。

気象条件としては、日本海側気候に属し、冬期は平地でも積雪し、北西部の山間部では 1 m を超す積雪となる場合もある。

京都市と神戸市から直線で約 60 km、大阪市からは約 70 km の距離にあり、比較的日本海にも近く、その地理的条件により北近畿の交通の結節点となっている。

市は、大まかには、福知山駅及び国道沿いに広がる市街地と、その周辺の農山村地域によって構成されている。

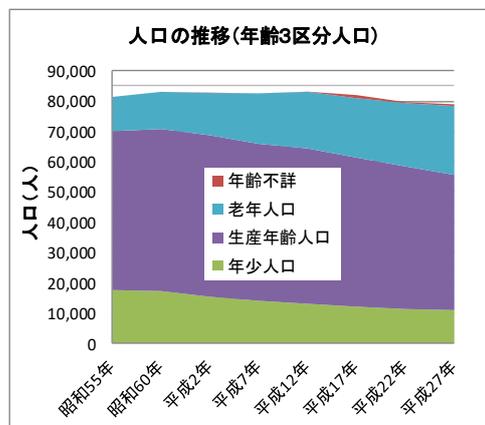
#### (2) 人口とその推移

福知山市の人口は昭和 60 年の 83,057 人から微減傾向となっていたが、平成 12 年には再び人口が微増し、83,120 人でピークを迎えた。しかし、その後は一貫して減少傾向となり、平成 22 年には 79,652 人、平成 27 年には 78,935 人となっている。総人口の減少は緩やかに推移しているものの、その内訳としては年少人口、生産年齢人口の減少幅が大きく、将来の急激な人口減少が懸念されると言える。

図表 1 福知山市の人口の推移

年	総人口	年齢3区分人口			
		年少人口	生産年齢人口	老年人口	年齢不詳
昭和55年	81,398	17,544	52,504	11,326	2
昭和60年	83,057	17,218	53,537	12,298	4
平成2年	82,791	15,333	53,352	13,992	114
平成7年	82,555	14,004	51,843	16,708	0
平成12年	83,120	13,018	51,316	18,713	73
平成17年	81,977	12,060	49,248	19,666	1,003
平成22年	79,652	11,283	47,112	20,912	345
平成27年	78,935	10,917	44,673	22,787	558

福知山市人口ビジョン及び平成27年国勢調査結果から筆者作成

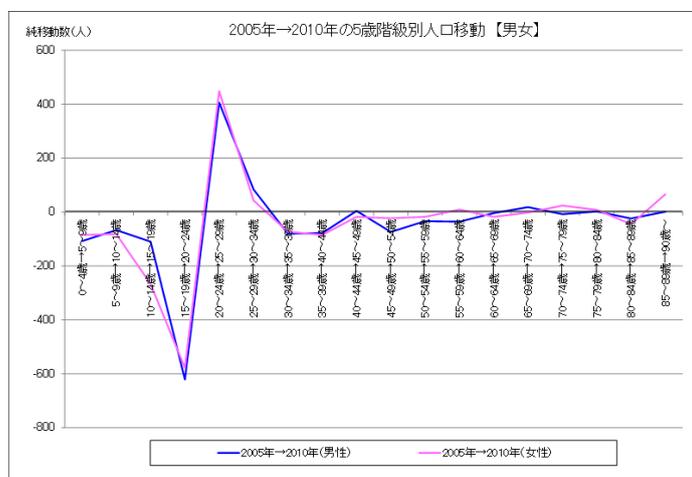


### (3) 人口の社会動態の推移

転入者数から転出者数を差し引いた社会動態は、概ね減少している。平成 18 年から平成 27 年の 10 年間に於ける年平均数は、213 人の減少、平成 23 年からの 5 年間の年平均数は 142 人の減少である。(福知山市統計書より)

平成 17 年から平成 22 年までの期間における性別・5 歳階級別人口移動の動向をみると、特に 15～19 歳が 20～24 歳になる段階での転出が多く、進学を機に転出する人口が多いと考える。逆に、20～24 歳が 25～29 歳になる段階、及び 25～29 歳が 30～34 歳になる段階で転入超過となっており、就職・転勤により転入する人口が多いと考えられる。

図表 2 福知山市の性別・5 歳階級別人口移動の動向 (福知山市人口ビジョンより)



## 2 福知山市の移住促進施策

### (1) 移住促進のための補助金

「移住・定住住宅補助金制度」は、同一企業内の転勤者・公務員・学生を除き移住希望者名簿に登録された世帯に対して、月額 3 万円を 1 年間補助するものである。平成 28 年度の交付者数は 23 世帯 (40 人) であった。

「移住・定住雇用奨励金制度」は、本市に主たる事業所を有する中小企業及び特定

非営利活動法人等が、市外からの移住者と新規に雇用契約を締結した場合に月額 4 万円を 1 年間補助するものである。平成 28 年度の交付対象者数は 8 人であった。

## (2) 空き家バンク制度

「農山村地域空き家情報バンク制度」は、都市計画法による市街化区域等を除いた農山村地域において、空き家・空き地の情報提供を行う制度であり、平成 28 年度末の登録件数は 27 件、平成 28 年度中の成約件数は 12 件となっている。更に、制度を利用した場合には、住宅改修費等の補助金（上限 100 万円）も利用可能である。

「中心市街地空き家・空き店舗等ストックバンク制度」は、中心市街地商業等活性化基本計画により定められた区域から準工業地域を除いた区域において、空き家・空き店舗の情報を、本市の中心市街地内で商業を営むことや定住することを希望する人に対して情報を提供する制度であり、平成 29 年 12 月 1 日現在の空き家・空き店舗の登録件数は 15 件、平成 28 年度中の成約件数は 2 件となっている。

## (3) お試し住宅

日常的な生活や就職・起業の準備、定住先など新たなライフスタイルを検討する施設として利用してもらう「お試し住宅」を 4 戸整備している。使用開始日から 3 か月以内は使用料を無料とし、4 か月目以降も一定期間は割安の使用料設定としている。平成 28 年 11 月から提供を開始し、1 年間で 6 世帯（10 人）の入居があった。

## (4) ふくちファンクラブ

福知山市外に在住し、福知山市に愛着を持つ方が登録でき、広報誌の送付やイベント等の情報提供、市内で利用できる優待特典（公共施設・宿泊施設・お土産物店等を予定）を受けられる制度であり、今の福知山市を知り、福知山市を訪れ、全国に福知山を発信されることを目的として平成 29 年 6 月から実施している。直接的な移住施策ではないが、将来又は間接的に移住につながることも期待している。

## (5) ワンストップ窓口の設置等

平成 28 年 4 月に、移住希望者への住居、雇用、地域情報などに関するワンストップ相談・支援窓口となるサポートセンターを市役所移住・企業立地推進課内に設置した。平成 28 年度中の相談件数は 113 件となっている。

また、福知山移住を勧めるウェブサイト、冊子の作成や大都市圏での移住フェアへの参加等、積極的な情報発信に努めるとともに、京都府北部 7 市町と連携した移住促進施策にも取り組んでいる。

## 3 移住先として選ばれるために

### (1) 移住先に選ばれることの困難性

福知山市における移住施策は、よく言えば、標準的なサービスが提供できていると

言えるが、逆に言うと他自治体でも実施されているものであり、誘引力が弱い施策の提供にとどまっているとも言える。

これらの施策のみで全国で 1,700 以上ある市町村の中から、福知山市を 1 番目に選んでもらうということは、非常に困難であると言わざるを得ない。

## (2) 移住希望者が選ぶ基準

平成 26 年 6 月内閣府世論調査「農山漁村に関する世論調査」によると、農山漁村地域に定住してみたいという願望がある人に、農山漁村地域に定住する願望を実現するには、どのようなことが必要だと思うか聞いたところ、「医療機関（施設）の存在」を挙げた者の割合が 68.0%、「生活が維持できる仕事があること」を挙げた者の割合が 61.6%、「家屋、土地を安く購入できること」47.2%、「居住地の決定に必要な情報全般を入手できること」が 43.4%、などの順となっている。

## (3) 福知山市の特徴・強み

福知山市においては、移住に際して重要視される就労環境、医療・子育て・教育環境については、比較的充実していると言える。（図表 3 参照）

これらにより、多くの移住者希望者が求める移住先の都市機能を一定満たすことができると考えられる。

図表 3 福知山市の移住に関する主な特徴・強み

項目	特徴	備考
有効求人倍率	福知山公共職業安定所管内の有効求人倍率1.52(全国平均1.52)	平成29年7月
10万人あたり病院病床数	病院病床数は1,456床(全国平均1,215床)	日本医師会 地域医療情報システムより(2016年10月現在の地域内医療機関情報の集計値(人口10万人あたりは、2015年国勢調査総人口で計算))
三次救急医療施設	京都府北部地域の拠点として福知山市民病院が存在	
保育所	待機児童数0人	
高等学校	個性豊かな6つの高等学校(公立3校、私立3校)が存在	
大学	北近畿唯一の4年制大学である福知山公立大学が存在	
人口千人あたり小売事業者数	7.5事業者(全国平均6.1事業者)	平成26年商業統計、平成27年国勢調査人口から作成

また、20 年前の 10～14 歳人口に対する現在の 30～34 歳人口の比率(以下、「人口回復率」という。)

(図表 4 参照) は周辺市と比較すると高く、また、合計特殊出生率も 1.96 (2008 年～2012 年人口動態保健所・市区町村別統計) と高い。これらの高い値もこうしたした強みに支えられていると推察される。

	1997年3月31日 10～14歳人口(人) (a)	2017年1月1日 30～34歳人口(人) (b)	人口回復率(%) (b)/(a)×100
福知山市	5,078	4,475	88.13
舞鶴市	5,328	4,288	80.48
綾部市	2,250	1,526	67.82
宮津市	1,361	700	51.43
京丹後市	4,348	2,422	55.70
南丹市	1,825	1,538	84.27

住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査から筆者作成

図表 4 福知山市の人口回復率

#### (4) 独自性のある移住戦略の可能性

特定非営利活動法人「100万人のふるさと回帰・循環運動推進・支援センター」への平成 28 年度の間合せ・来訪者数は東京と大阪を合わせて 29,432 件（平成 28 年度同法人 年次報告書より）の平成 24 年度の 15,702 件の約 2 倍となっている。この数字は移住を希望する人が増加しつつあるという傾向を示すものであり、地方移住希望者数の総数については現在示す資料がないが、潜在的な需要も含めると相当の数の地方移住希望者があるものと推測される。

福知山市は、現時点で人口回復率が高く、また合計特殊出生率も高い。さらに、企業誘致や大学生の増加に伴う定住者の増加も見込んでいるところであるため、純粋に移住施策で必要と考えられる転入者数は、全国の移住者希望者数と比するとそう大きくない数と言えるだろう。

大きな母数がある中、そのすべての人に移住先として選ばれる必要はなく、特徴的で独自性のある取組を行うことで、結果として興味を持つ移住希望者の割合が少なくなっても、市にとっては十分な移住者数を得ることができると言えるだろう。

しかしながら、特徴的で独自性のある取組と一言でいっても様々方法が考えられる。そこで、ここからは、福知山において、どのような移住戦略が更なる移住促進につながる可能性があるのかを考えてみたい。

#### 4 他団体の特徴的な取組

当然ながら、全国の自治体では工夫を凝らした様々な移住施策が実施されている。これまで福知山市ではターゲットを明確に絞った施策は行ってきていない。そこで、ターゲットを明確に絞った特徴的な施策例とともに、ターゲットを明確にしないながらもその特徴により強い宣伝効果を持たせることに成功した施策例から、それぞれの効果について検証してみる。

##### (1) ターゲットを明確にする～島根県浜田市「ひとり親移住支援」の例～

島根県浜田市では、ひとり親家庭の支援と定住の促進に加えて、慢性的に不足している介護人材の確保を大きな目的として、ひとり親家庭の移住に対して手厚い支援を実施し、全国から大きな反響があったところである。

具体的な支援策は、県外からの移住者を対象として、月額 15 万円以上の給与、1 世帯につき月額 3 万円以上の養育支援、家賃の 2 分の 1 以上の補助、中古自動車の無償提供、引っ越し支度金 30 万円の支給、1 年間の研修終了後の 100 万円の奨励金の支給、介護職員初任者研修の受講支援などとなっている。

市の募集に対しては、全国から想定を超える数の問い合わせ・応募があったところであるが、一世帯あたり約 400 万円という経費については高すぎるという声もある。一世帯を呼び込むのに多額の経費がかかるという点については、各市町村の考え次第ではあるが、ターゲットを絞り明確なコンセプトを打ち出すことが、そこに反応する人には大きな訴求力を発揮するという好例と言えるのではなかろうか。

## (2) あえてターゲットを絞らないが特徴的～福井県鯖江市「ゆるい移住」の例～

福井県鯖江市では、地元企業への就職を前提としたものや、農業や地場産業への従事、地域資源を活用した起業促進等といった直接的な移住促進効果が見える施策とは一線を画した「ゆるい移住」を実験的に実施した。

「ゆるい移住」プロジェクトは、体験移住者同士が共同生活する住宅を最大半年間家賃無料で市が提供するが、地元での就職・起業や定住を押し付けることなく、その斡旋や支援プログラムも一切なく、まずは気軽に住んでみて、田舎のまちをゆるく体験してもらうことをコンセプトとしている。

若者を中心に全国から様々な人が集まった取組であるが、移住・就業といった直接的な効果が表れにくい取組であり、その点については議論があるところだとは思いますが、「ゆるい移住」というキャッチーなネーミングによる宣伝効果・認知度の上昇効果や、「移住に少し興味がある層」の取り込みの可能性を広げるなどの効果が期待できる取組であると考えられる。

## 5 移住者の声から見る福知山市の魅力

ここでは、福知山市が特徴的な移住施策を実施していくうえで欠かせない、福知山市の魅力について実際の移住者の声から探ってみたい。

京都ふくちやま移住定住・企業立地サポートセンターにおいて、移住者に行ったインタビューから福知山市の魅力を探ってみる。なお、移住者の現在の居住地は、中心市街地や周辺山間地など様々である。

### (1) 福知山市への移住者の声

#### ① 移住を決めた理由の例

- ・やりたい仕事への転職・起業（デザイナー、カフェ、農業、漆産業など）
- ・魅力的な古民家（空き家）の存在
- ・大学時代に触れた福知山に関わる人が魅力的だったから
- ・Uターン

#### ② 福知山の暮らしで好きなところの例

- ・商店街とまちの人の雰囲気
- ・子育てに最適な環境、安心した教育環境
- ・田舎ならではの環境を活かしたビジネスを展開できるところ
- ・自然ゆたかな環境と風景、星がきれいなところ
- ・美味しい野菜
- ・人と人との良いつながりが多い、優しいご近所さんに囲まれていること
- ・田舎のまちだけれど生活に不便を感じない
- ・街はコンパクトで使い易く、山は深く、探検するには奥深い
- ・美味しい空気、水、山に囲まれて四季を肌で感じることができること
- ・山に囲まれていながら海までも近く、美味しい魚介類も手に入ること
- ・都会の部分と田舎の部分の入り混じっているところ

・「京都ブランド」が使えるところ

## (2) 福知山市の魅力と考えられるポイント

移住者にとっての魅力は人それぞれではあるが、移住者の声などを踏まえると、福知山市の魅力として次のことは訴えていけないのではないだろうか。

- ①自然環境、美味しい食材等の田舎ならではの良さ
- ②生活に不便を感じないだけのコンパクトな都市基盤
- ③適度な繋がりがある人間関係
- ④転職や起業が可能となる環境や市場規模があること

## 6 可能なライフスタイル

ここでは、福知山市の魅力や踏まえ、移住希望者への訴求力がある、福知山市で考え得る特徴的なライフスタイルを提示してみたい。

### (1) 不便を感じない都市的な生活ができるまち

先に触れたとおり、福知山市では、移住に際して重要視される就労環境、医療・子育て・教育環境が充実し、また、中心部には商業施設も集積しており、個人個人の感じ方は様々であり一概には言えないが、地方でありながら不便を感じないだけの都市基盤があると言える。

転職や起業も可能な環境もあり、都市生活に慣れた移住希望者が農村地域への本格移住する前に、地方生活を経験するための適地としてアピールすることができるだろう。

### (2) 職住近接の生活ができるまち

平成 27 年の京都府少子化要因実態調査報告書によると、福知山市は、他市区町村への通勤者比率は 13.3%と、京都府内の 36 市区町村の中で 34 番目であり、市内に居住し同じ市内で働くという職住近接の生活がしやすいまちであることが伺える。

通勤に時間がかかれば、その分私生活に充てられる時間が増え、人生そのものの豊かさに繋がるという視点で魅力を訴えられるだろう。

### (3) 戸建て住宅を市街地に持てるまち

福知山市の中心駅である福知山駅の周辺においても、54,440 円/㎡の地価（筆者作成 平成 29 年地価公示 住宅地で福知山駅から 2,000m 以内の地点の平均地価）であり、150 ㎡でも 816 万 6 千円と住宅地の購入のハードルは高くないと言える。また、中心市街地における空き家バンク制度も実施しており、更に安価で戸建て住宅を取得することも可

図表 5 福知山市の住宅地価格

福知山駅から2,000m以内の「住宅地」の  
公示価格

駅からの距離(m)	地価公示額(円/㎡)
1,900	44,500
1,200	57,800
700	68,300
1,600	45,200
2,000	56,400
平均額	54,440
150㎡の価格	8,166,000

国土交通省地価公示(2017)から筆者作成

能である。

また、コンパクトで機能の充実した市街地に戸建て住宅を持てるということは、快適な居住環境の確保されることに加え、地方生活では必須とも考えられる自家用車を持たずとも快適な生活ができるとも言える。公共交通機関の発達した大都市在住者には車を持たない人も多く、地方へ移住してもできれば持ちたくないという移住希望者も一定規模あると思われる。

#### (4) 都市と田舎を同時に体感できるまち

福知山市はコンパクトな市街地部分のすぐ外には、豊かな自然を持つ農山村地域が広がり、都市と田舎の距離が近いという特徴がある。都市に住みながら田畑を持つ、逆に田舎に住みながら市街地の企業に通勤する、といった多様なライフスタイルを選ぶことができる環境と言える。

#### (5) 必ずしも濃密な人間関係を築く必要がないまち

内閣府の都市住民の農山漁村地域への定住願望についての調査では、「農山漁村地域への定住願望実現のため必要なこと」の設問に対して、「近所の干渉がなくプライバシーが保てる環境」を望む回答が 10.2%あり、若い世代ほどその割合が高い傾向がみられる。大都市にはない濃密な人間関係に魅力を感じる移住希望者が多くある一方で、そこに抵抗を感じる人も相当数いることがわかる。

福知山市の新興市街地部においては、市外からの転入者も多く、比較的「近所の干渉がなくプライバシーが保てる環境」を選択することができる。そういった移住者を呼び込もうとすることは、移住者に「地域活性化の担い手」を期待してきた従来の考え方とは異なるところである。しかしながら、相当のニーズがあり、その増加が人口増に寄与することに鑑みると、無視してしまうことは得策ではないと考える。

## 7 移住施策の提案

前節までで、福知山市の特徴や、それらを活かして可能となるライフスタイルを列挙してみた。これらを踏まえて、福知山市で考え得る、島根県浜田市のようなターゲットを明確にした施策と福井県鯖江市のようなターゲットをあえて絞らない施策を、それぞれ提案してみたい。

### (1) I ターン就職者・転勤者に向けた移住施策（ターゲットを特定）

福知山市の特徴のひとつとして、工場や営業所の立地が多く I ターン就職や転勤による転入が多いことがある。一般的に I ターン就職・転勤者は、地域社会との関係が希薄になり孤立しがちである。そこで、そういった層に、地域と交流する機会や自然の魅力に触れる機会を設け、そして転出される場合でもその後の関わりを持ってもらうことにより、I ターン就職や転勤で福知山市に転入した人を繋ぎ止め、また一旦転出されたとしても将来的に再び帰ってきてもらう可能性を高め、人口増に繋げるものである。

具体的には次のような取組が考えられる。

- ①I ターン就職者・転勤者に対する農業・林業体験・自然体感メニューの提供  
⇒農林業への転職可能性、自然の魅力を提示する。市街地に住みながらも実現可能なことも伝える。
- ②企業を通しての、祭り等の地域イベントへの参画の働きかけ  
⇒地域及びそこに生きる人々の魅力を提示する。
- ③転出者への「ふくちファンクラブ」への入会斡旋  
⇒福知山市とのつながりの継続してもらう。

## (2) 濃密な人間関係を求めない移住希望者に対する施策（ターゲットを特定しない）

他方で、福知山市では、「近所の干渉がなくプライバシーが保てる環境」も提供できる。この点を、地方移住に興味がありながら、濃密な人間関係に抵抗・不安がある層へ働きかけることにより、福知山市の都市部への移住促進を図ることも可能であると考えられる。現在、全国で積極的に進められている移住施策においては、「移住者」が「地域の担い手」となることを期待する、またはそのことを良しとしている傾向がある。その中においては異彩を放ち、福井県鯖江市の例のように注目される施策となり得るのではないだろうか。

具体的には次のような取組が考えられる。

- ①大都市圏の移住希望者に対しての、前節で示したライフスタイルと、実現できるエリアの紹介  
⇒ライフスタイルに共感する層、特に複数に共感する層の掘り起こしを図る。
- ②中心市街地商業等活性化基本計画により定められた区域以外の市街化区域への空き家バンク制度の適用（空き家バンクエリアの拡大）  
⇒比較的新しい住宅街への入居を斡旋できるようになる。
- ③移住前における移住後の地域組織等との関わり方についての相互理解の促進  
⇒移住前に、移住希望者と地域組織等との間で、その関わり方について相談する機会を促し、結果として、地域の理解のもと一定の期間役員等にならないなど、その移住者なりの関わり方が選択できれば、地域生活に対する不安感・抵抗感が軽減されるのではなかろうか。

## おわりに

福知山市には就労環境、医療・教育環境が充実しているという強みがあり、種々の移住施策にも取り組んでいる。それは、もちろん福知山市を移住先として選ぶためにプラスに働くことは間違いない。しかしながら、そのような条件を備えた自治体は、全国に数多くあるのも現実であり、移住を希望するその人にとって唯一の存在となるための決定的な要素になり得るものではない。

本稿ではターゲットを特定した施策、ターゲットを特定しない施策の可能性をそれぞれ提案した。いずれにしても、全ての人にとってどこの市町村よりも優れた移住施策を

作ることは現実的でなく、不可能である。そこで、幅広く移住者を集めようとするだけにとどまらず、福知山市の強みをいかした差異化された特徴的な施策を実施していくことが、ある移住者希望者にとってはオンリーワンの移住先として選ばれ、結果として移住者の増加につながるのではないかと考えたものである。合わせて、多くの媒体での戦略的な PR、移住者の声の積極的発信、中高生の郷土愛の醸成等の広報、支援策を戦略的に講じていくことで、さらに効果が出てくるであろう。

今回は、ターゲットを絞り込んだ「I ターン就職者・転勤者に向けた移住施策」と、あえてターゲットを絞らない中でも他自治体との差異を訴えられる「濃密な人間関係を求めない移住希望者に対する施策」を提案したが、実際にどのような移住施策を行うのかは、福知山市の今後のまちづくり・地域づくりのあり方とも合わせて考えていくべきであり、政策的な志向とマーケティングにより決定されるものであろう。そしてなお、失敗のリスクがあることも覚悟しておかなければならない。そのうえで、今後、一歩踏み込んだ攻めの移住施策を展開することが、福知山市が「元気な地方都市」として発展していくことに寄与するものと信じている。

#### 【参考文献】

- ・ 京都府（2015）『京都府少子化要因実態調査報告書』
- ・ 京都ふくちやま移住定住・企業立地サポートセンター（2016）『京都福知山ふくふく暮らしのススメ』
- ・ 国土交通省（2017）『地価公示』
- ・ 内閣官房（2014）『「東京在住者の今後の移住に関する意向調査」結果概要について』
- ・ 内閣府（2005）『都市と農山漁村の共生・対流に関する世論調査（2005年11月調査）』
- ・ 内閣府（2014）『農山漁村に関する世論調査（2014年6月調査）』
- ・ 福知山市（2007～2015）『福知山市統計書』
- ・ 福知山市（2015）『福知山市人口ビジョン』